

京都セミナー

(2015年4月20日～21日)

●早坂恭 東村山教会福音自由教会 牧師

溝部司教による「黙想」のご指導がとても有意義でした。知的探求に偏りがちな私たちにおいて、想像力を働かせることや対話するという「黙想」のあり方に新鮮さを覚えました。日々の小さな決断の繰り返しの先に大きな決断があるという説得力のある言葉にも感銘を受けました。狭い視野で牧会に歩んでいる自分でしたので、広い視野で学ぶ大切さに気づかされ幸いでした。

●瀧野弘司 大津福音自由教会 牧師

私は溝部神父の講義とミサに与らせていただきました。キリシタンたちがみことばを黙想し、それを分かち合いながら、生活に活かし、信仰を育てていた日本のキリスト者の先輩たちの姿勢を学び、私も大切にしなければならぬと思ひ、それから意識して黙想の時を持っています。

●伊藤和人 春日井福音自由教会

カトリック京都西陣教会に足を踏み入れ、望洋庵にて溝部脩名司教と過ごした時と空間は自分にとって全く未体験ゾーンに入り込んだような感覚でした。ザビエル以来徳川禁令の時代を経てなお連綿と続いてきたキリシタンの信仰。そして黙想。コンシダラサ〜ン。メディタサ〜ン。コンテンブラサ〜ン。そしてディッセルニメンツと続く神様との交わり。丁度「神様とのデート」の時間について考えていた時。主のご指南を頂いた体験でした。

●関根和美 歌人

春雨に濡れて一条みどりなす葉匠の庭に明るむこころ
鼻音美しき溝部神父の異国語にはや瞑想の入り口に佇つ
かく近く右近想うよ典雅なるみちびきにいま身を参らす
雨音のかなた池水の響くまで精神すませて聖堂にあり
南蛮寺つづれに織られ西陣の庵いさる壁いちめん

●江原望 表具師

楽しいひと時を、また得難い貴重な体験をさせていただき感謝いたします。
溝部先生のお話は門外漢の私にも自然に聞くことができました。日々の小さな決断を積み重ねることが、大きな決断をする力になる。決断を先送りしてそのうちあやふやになってしまいがちな私にはドキッとさせる言葉でした。
瑞峯院での座禅も初体験でしたが、初め他の観光客の声が気になっていましたが、最後には雑音が全く入ってこない状態になっていたように思うのです。
おしまいの鐘の後ふしぎな気持ちでした、無になっていたのか半分寝ていたのかわかりませんが…

●宗形和平 流山福音自由教会

実は「黙想」という言葉には、どこか不安定さというもの

感じていました。ところが溝部脩司教から、歴史的背景を踏まえて実践と共に教えていただいた後は、全く新しい視点での理解となりました。「黙想は楽しいものなのです」と語られたのですが、まさにその通りでした。「体験しなければわからないことがある」ということの再確認をさせていただく時ともなりました。このような機会を与えてくださったことを心から感謝いたします。

●水野健 枚方福音自由教会 牧師

京都セミナー「黙想を学ぶ」は大変密度の濃い、有意義なツアーとなりました。
第一線の人、歴史的な場所との出会いがテーマになるでしょうか。20日は溝部脩司祭から、キリシタン時代の霊性について学びました。高山右近はよく茶室に退き祈っていたという記述がありますが、イエズス会の霊性から御言葉を考察、黙想、対話、識別するという静まりの時を持っていたことを知りました。21日には国宝待庵、大徳寺瑞峯院訪問、前田昌道老師との対話がありました。

●早矢仕宗伯 東京武蔵野福音自由教会 牧師

溝部司教より、迫害時代のキリスト者たちが、当時の宣教師から徹底的にみことばより、イエスを黙想する事を指導され、身につけようとしていたことを教えていただき、彼らのイエスの弟子として生きる力強さがどこから来たのかを知った。数年前から、個人的に黙想に取り組み始めたが、今回のツアーを通して、みことばにより、イエスを黙想する事が、キリスト者の黙想であることを実体験させていただきました。

●高橋正則 宇治福音自由教会 牧師

私はセミナー初日だけの参加となってしまったが、カトリックの溝部司教とのお交わりが与えられたことが非常に有意義であった。
溝部司教は黙想の中で聖書を思い巡らしメッセージを受け取るということを大切にされ、それを若い人たちと分かち合って来られた。カトリックの中にもみことばそのものを大切の方がおられる事が新鮮であり、また先生の人柄もその学識をひけらかさない謙遜さと信仰の豊かさを感じさせ、非常に感謝だった。

●スムットニー祐美 関東学院

溝部脩司教様はキリシタン時代において、宣教師はどのよ



妙喜庵 国宝茶室待庵にて

うに伝道したか、信者はどのように信仰を受容したかなどに関し、資料に基づきご教示くださったので、当時の布教の実態が理解できました。さらに「黙想」は、具体的(考察・黙想・対話・識別)な解説に続き、実際に「黙想」体験という機会をいただき感謝でした。待庵は千利休の意図したわびの精神が凝縮されているかのようでした。国宝の重みを実感しました。

●山田豊 春日部福音自由教会 牧師

雨に打たれた新緑の庭を眺めながら、セミナーが始まりました。キリスト者の黙想は、イエス様と出会う黙想であることを改めて知る。初めて訪れた堺では、利休と日比屋了珪、そしてザビエルの出会いを思い描く時にもなった。日本に生まれて主のみ言葉を味わう幸い、そして福音を証しする者とされたことの使命を新たに感じる、中身の濃いセミナーとなった。

●小野信一 春日部福音自由教会 牧師

望洋庵にて、聖書への取り組みには、北ヨーロッパからと、南ヨーロッパからの、二つの流れがあると聞いた。みことばと祈りの Encontro das Aguas をわが人生に見出したい。

アルプスの北と南を流れ来し
祈りの大河ひとつとなさん

昌道老師、本気の思いを本気で伝える。遊びが入っている。バラバラになっていない。すてきだ。そのようになりたい。自分はまだそうなれていない。
本気になる自分とふざけている自分
このバラバラを一つにしたい

京都セミナー「黙想を学ぶ」

4月20日(月)

午前：オリエンテーション 虎屋菓寮京都一条店
高橋敏夫主幹伝道者

午後：望洋庵 溝部脩司教による、黙想の指導とミサに参加
4月21日(火)

午前：妙喜庵にて、国宝茶室待庵見学

午後：大徳寺瑞峯院にて、前田昌道師による座禅指導と懇談
コメント

*望洋庵は、志をもって現代社会と教会に自分を捧げて生きようとする青年に開かれた家であり、庵主・溝部脩司教とともに数名の司祭・修道者、そして青年からなるスタッフ、協力者のもとで運営されている。溝部司教は、高山右近列福のための論文の草稿者。

*待庵は、臨済宗の寺院、妙喜庵にある国宝の茶室。広さは畳2畳。千利休作と信じる唯一の日本最古の茶室であり、高山右近とのかかわりがある。

*瑞峯院は、大徳寺塔頭の一つ。臨済宗大徳寺派の寺院で、創建は1535年(天文4)。大友宗麟の菩提寺で、十字架に組まれた石の庭がある。



大徳寺瑞峯院にて

日本バプテスト横浜教会

(2014年11月16日)

日本バプテスト横浜教会牧師 大矢啓生

日本バプテスト横浜教会の牧師の大矢啓生と申します。
2014年11月16日の特別伝道礼拝に高橋敏夫先生において頂き、「聖書と茶の湯もてなしの心」と題して説教を、午後のセミナーでは「千利休の侘び茶のもてなし」というテーマでお話を頂きました。教会員の感想を伺いますと、皆さん刺激を受けられたようで、宮城出身の団塊の世代の教会の方は、母教会の高校時代の一人の先輩を思い出したそうです。先輩は、教会に興味のお茶の道具を持って来て、率先して、教会員にお茶をたてていたそうです。先輩に、高橋先生から学んだような意図があったのかどうか、その事を思い出したと言っておられました。また、他の教会員は、日本のお茶の原点

にキリスト教があったかもしれないということが斬新だったとか、普段の教会員のお茶を飲む交わりの時間をもっと深めたいなどのご意見を伺うことができました。普段聞くことのできないお話を伺うことができ、高橋先生に感謝しております。高橋先生のお働きが祝されることを祈ります。ありがとうございました。

